



やってみせ 言って聞かせて させてみて 誉めてやらねば

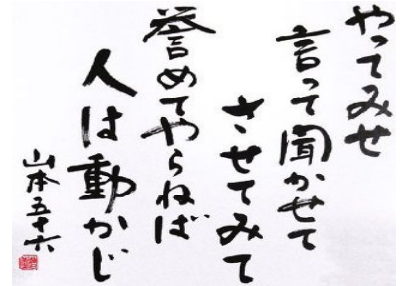
校長 加納 素介

夏休みが終わり、2学期がスタートしました。夏休み前集会で、児童に次のような話をしました。「夏休みの課題である仕事調べで、進んで行動、進んで話を聞いてみよう」「自分の命を守るためのアイコンタクトをしよう。そして相手の目を見て挨拶できるようにしよう」と。夏休みが明けて子どもたちは、「夏休みの作品」を持って笑顔で登校することができました。夏休みに頑張って取り組んだ課題や作品を学級の仲間に自信をもって紹介(クラスの宝物発表)する子どもたちの姿から、ご家庭の協力や働きかけがあり、充実した生活ができたことが伝わってきました。

夏休みの生活の中で、子どもたちが自慢できる取り組みをすることは簡単なことではありません。学校生活のように集団で決められた時間の中で学習するのは違って、より主体性が求められるからです。「いい加減やりなさいよ!」と繰り返し言われても、やる気は起こらないものです。

そのような夏休みの生活の中で、子どもたちが素晴らしい成果をあげたのは、保護者の皆様の「**やってみせ 言って聞かせて させてみて 誉めてやる**」といった愛情ある働きかけきかけがあったからだと思います。

「自分の命を守るためのアイコンタクト」も同じです。「車に注意しなさい!」だけでなく、子どもと一緒に相手を見ながら確認する働きかけが大切です。こうした愛情ある大人の働きかけは、子どもの力を伸ばすと言われています。こうした働きかけは、陶小学校として大切にしていきたい教育の在り方です。



～子どもの学力を高める愛情ある働きかけ～

1 「勉強しなさい」と言わず、一緒になって始めさせる

子どもに「勉強しなさい」とよく言っている家庭ほど、子どもの学力は低くなる傾向もある。普段、子どもの勉強をみたり、計画的に勉強するように促すことの方が効果的。

2 朝ごはんを食べさせる

生活習慣を身に付けさせることが重要。朝食を食べる時間をつくることで、寝坊をしなくなり、ひいては夜ふかしをしないことにもつながる。ゲームをする時間を家庭で決め、携帯電話等のルールを決めるのも生活習慣を崩さないのに役立つ(必ずやっておくことです)。

3 読書を勧める

本や新聞を読むことを子どもに働きかけることは、子どもの学力と非常に強い関係が見られる。読んだ本の感想を話し合ったり、小さい頃に絵本の読み聞かせをする家庭ほど、子どもの学力は高くなる傾向がある。

4 子どもを図書館や美術館や博物館に連れて行く

自然と子どもに学習機会を与えることになる。図書館に月1回連れて行く家庭と、連れて行ったことがない家庭では、テストの正解率に30%の開きが見られる結果も。読書を勧めるだけでなく、一緒に行くことで効果が上がる。子どもが英語や外国の文化に触れるよう意識するなど同様の効果がある。

5 子どもと会話する

日々の出来事だけでなく、ニュースの内容について話をしたり、進路や将来の話をするのが、学力に強い影響を及ぼしている。ただし、子どもが小学生の時のほうが、保護者がどの程度積極的に子どもと関わるかにより影響を与えている。

【国立教育政策研究所が発表した資料「親がすべきこと」より】

多様な体験を一緒になって行うことが子どもの学力を向上させるように、金銭教育の体験学習(仕事調べなど)が、子どもの自立に向けて意義あるものとしていきたいです。



やってみせ 言って聞かせて させてみて 誉めてやらねば

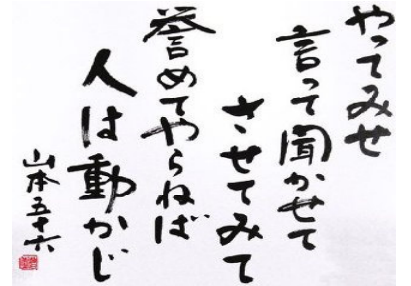
校長 加納 素介

夏休みが終わり、2学期がスタートしました。夏休み前集会で、児童に次のような話をしました。「夏休みの課題である仕事調べで、進んで行動、進んで話を聞いてみよう」「自分の命を守るためのアイコンタクトをしよう。そして相手の目を見て挨拶できるようにしよう」と。夏休みが明けて子どもたちは、「夏休みの作品」を持って笑顔で登校することができました。夏休みに頑張って取り組んだ課題や作品を学級の仲間に自信をもって紹介(クラスの宝物発表)する子どもたちの姿から、ご家庭の協力や働きかけがあり、充実した生活ができたことが伝わってきました。

夏休みの生活の中で、子どもたちが自慢できる取り組みをすることは簡単なことではありません。学校生活のように集団で決められた時間の中で学習するのは違って、より主体性が求められるからです。「いい加減やりなさいよ！」と繰り返し言われても、やる気は起こらないものです。

そのような夏休みの生活の中で、子どもたちが素晴らしい成果をあげたのは、保護者の皆様の「**やってみせ 言って聞かせて させてみて 誉めてやる**」といった愛情ある働きかけきかけがあったからだと思います。

「自分の命を守るためのアイコンタクト」も同じです。「車に注意しなさい！」だけでなく、子どもと一緒に相手を見ながら確認する働きかけが大切です。こうした愛情ある大人の働きかけは、子どもの力を伸ばすと言われています。こうした働きかけは、陶小学校として大切にしていきたい教育の在り方です。



～子どもの学力を高める愛情ある働きかけ～

1 「勉強しなさい」と言わず、一緒になって始めさせる

子どもに「勉強しなさい」とよく言っている家庭ほど、子どもの学力は低くなる傾向もある。普段、子どもの勉強をみたり、計画的に勉強するように促すことの方が効果的。

2 朝ごはんを食べさせる

生活習慣を身に付けさせることが重要。朝食を食べる時間をつくることで、寝坊をしなくなり、ひいては夜ふかしをしないことにもつながる。ゲームをする時間を家庭で決め、携帯電話等のルールを決めるのも生活習慣を崩さないのに役立つ(必ずやっておくことです)。

3 読書を勧める

本や新聞を読むことを子どもに働きかけることは、子どもの学力と非常に強い関係が見られる。読んだ本の感想を話し合ったり、小さい頃に絵本の読み聞かせをする家庭ほど、子どもの学力は高くなる傾向がある。

4 子どもを図書館や美術館や博物館に連れて行く

自然と子どもに学習機会を与えることになる。図書館に月1回連れて行く家庭と、連れて行ったことがない家庭では、テストの正解率に30%の開きがみられる結果も。読書を勧めるだけでなく、一緒に行くことで効果が上がる。子どもが英語や外国の文化に触れるよう意識するなど同様の効果がある。

5 子どもと会話する

日々の出来事だけでなく、ニュースの内容について話をしたり、進路や将来の話をするのが、学力に強い影響を及ぼしている。ただし、子どもが小学生の時のほうが、保護者がどの程度積極的に子どもと関わるかにより影響を与えている。

【国立教育政策研究所が発表した資料「親がすべきこと」より】

多様な体験を一緒になって行うことが子どもの学力を向上させるように、金銭教育の体験学習(仕事調べなど)が、子どもの自立に向けて意義あるものとしていきたいです。



やってみせ 言って聞かせて させてみて 誉めてやらねば

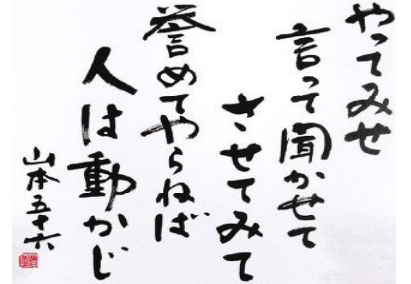
校長 加納 素介

夏休みが終わり、2学期がスタートしました。夏休み前集会で、児童に次のような話をしました。「夏休みの課題である仕事調べで、進んで行動、進んで話を聞いてみよう」「自分の命を守るためのアイコンタクトをしよう。そして相手の目を見て挨拶できるようにしよう」と。夏休みが明けて子どもたちは、「夏休みの作品」を持って笑顔で登校することができました。夏休みに頑張って取り組んだ課題や作品を学級の仲間に自信をもって紹介(クラスの宝物発表)する子どもたちの姿から、ご家庭の協力や働きかけがあり、充実した生活ができたことが伝わってきました。

夏休みの生活の中で、子どもたちが自慢できる取り組みをすることは簡単なことではありません。学校生活のように集団で決められた時間の中で学習するのは違って、より主体性が求められるからです。「いい加減やりなさいよ！」と繰り返し言われても、やる気は起こらないものです。

そのような夏休みの生活の中で、子どもたちが素晴らしい成果をあげたのは、保護者の皆様の「**やってみせ 言って聞かせて させてみて 誉めてやる**」といった愛情ある働きかけきかけがあったからだと思います。

「自分の命を守るためのアイコンタクト」も同じです。「車に注意しなさい！」だけでなく、子どもと一緒に相手を見ながら確認する働きかけが大切です。こうした愛情ある大人の働きかけは、子どもの力を伸ばすと言われています。こうした働きかけは、陶小学校として大切にしていきたい教育の在り方です。



～子どもの学力を高める愛情ある働きかけ～

1 「勉強しなさい」と言わず、一緒になって始めさせる

子どもに「勉強しなさい」とよく言っている家庭ほど、子どもの学力は低くなる傾向もある。普段、子どもの勉強をみたり、計画的に勉強するように促すことの方が効果的。

2 朝ごはんを食べさせる

生活習慣を身に付けさせることが重要。朝食を食べる時間をつくることで、寝坊をしなくなり、ひいては夜ふかしをしないことにもつながる。ゲームをする時間を家庭で決め、携帯電話等のルールを決めるのも生活習慣を崩さないのに役立つ(必ずやっておくことです)。

3 読書を勧める

本や新聞を読むことを子どもに働きかけることは、子どもの学力と非常に強い関係が見られる。読んだ本の感想を話し合ったり、小さい頃に絵本の読み聞かせをする家庭ほど、子どもの学力は高くなる傾向がある。

4 子どもを図書館や美術館や博物館に連れて行く

自然と子どもに学習機会を与えることになる。図書館に月1回連れて行く家庭と、連れて行ったことがない家庭では、テストの正解率に30%の開きが見られる結果も。読書を勧めるだけでなく、一緒に行くことで効果が上がる。子どもが英語や外国の文化に触れるよう意識するなど同様の効果がある。

5 子どもと会話する

日々の出来事だけでなく、ニュースの内容について話をしたり、進路や将来の話をするのが、学力に強い影響を及ぼしている。ただし、子どもが小学生の時のほうが、保護者がどの程度積極的に子どもと関わるかにより影響を与えている。

【国立教育政策研究所が発表した資料「親がすべきこと」より】

多様な体験を一緒になって行うことが子どもの学力を向上させるように、金銭教育の体験学習(仕事調べなど)が、子どもの自立に向けて意義あるものとしていきたいです。